諸君は其辺を知って居るか、吾々の立場も信条も充分察して戴きたい。

笹井氏　其は代表者からも聞きました、眞に吾々は生死の窮境に居る時であって慌ふる程上げて居るのである。

笹子氏　賃銀すても桜島なり築港、其他の會社と比較しても悪い事はない又他より高く騰がる事も其だけの能力が揚って来れば昇給すると言ふのだ、それで私の言ふ事が判ったか判るなら先の話は取消すか。

笹井氏　ハイ、ですが其れは吾々個人としての話であるのです。

神原氏
大西氏　笹井君、それは個人の話であるなら止めてくれ、吾々は皆の代表として来て居るのであって決して其麽話で此處へ来たのでないから――吾々の食って行くには什ふしても慌ふしても此の言葉を立て戴きたいのである。

西牧氏　其れなら親は死しても子がよければ宜いと言ふのか。

神原氏　其んな話は吾々は知らん、會社の潰れるとか何とかは吾々の関する處でない と思ふ。

笹子氏　其れでは居達の言ふ事は親子の関係も何もないではないか。

神原氏　昇給をそれならして呉れたら宜いではありませんか、要求を容れてくれたら。

笹子氏　昇給するかと言ふ事は話してるるではないか。

大西氏　定期昇給の事ですか。

西牧氏　昇給は眞面目で比較的給料の安くて家庭の困難な者、能率の高い人なれば次々と昇給する、皆で等期待あった者の安價な賃銀の者も沢山あるだが先達て特別昇給した一般の平均は直して行くとか近くまた昇給する事に関係する議も慌ふる出来て居た矢先であった。

神原氏　皆様が此處で吾々の言ふ事は聞き入れてくれるか、呉れないかの問題だ。

西牧氏　皆様は非常な誤解して居るから充分理解しなければいかん。

大窪氏　職長の話は一寸も吾々を其麽話とは聞かさない、昇給は何の位下ったか（議事）

西牧氏　20%である。